

津山市議会議員

政岡あきひろの議会報告

まさおか

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

ごあいさつ

津山市民の皆様、日頃より大変お世話になっております。政岡あきひろの議会報告第十二号が出来上がりしました。ご覧いただきありがとうございます。よろしくお願いたします。

いつもお話ししておりますが、私は議会が終わる度に議会報告を作成しています。津山市議会における私の活動内容と、新聞報道などでは伝えられない議会や行政内部の様子について、解りやすく皆様にお知らせするために書いています。

大きな変革

さて、本三月議会の報告をする前に、この二月十一日に投票が行われた津山市長選挙について、お話しする必要がありますかと思ひます。

これまで、この議会報告をお読み頂いている皆様や、市政報告会などを通じて私の話を聞いていただいたことがある皆様には、これまでの津



山市の執行部の姿勢や、行政の取り組みに関する状況について、十分にご理解をいただいていると思ひます。

また、そのような現状を背景として、多くの市民の皆様から、現在の津山市に漂う停滞感や閉塞感を伴うご意見も頂いております。実際、昨年末に山陽新聞にも数字が掲載されていましたが、経常収支比率・実質公債費率・将来負担比率など自治体の財政状況を示す指数に關していえば、本市は県下で最低の水準です。

一方、小学校六年生と中学校三年生で実施される全国学力テストの成績においては、津山市は岡山県の十五市中最下位という状況です。しかも、この五年間最低水準は改善されなままです。

この他にも、増え続ける市債発行残高など、多くの課題を抱えている津山市において、今回の市長選挙は現状の政治の継続を望むのか、或いは、改革により新たな将来を模索するのかという、重要な選択が迫られた選挙でした。

既に、皆様方にもご理解頂いていると思ひますが、私は「未来志向の改革」という自らの選挙にも掲げた言葉を、政治活動を行う上での信条としています。

また、この度の市長選挙に向けて谷口圭三氏を中心に組織された、津山の未来を創る会の考え方にも賛同しておりました。したがって、昨年七月から候補者である谷口氏と共に街頭に立ち、津山の現状の課題と進むべき方向性を訴えてきました。

そして、昨年十二月には谷口氏により明日の津山の未来を創るための



「津山八策」が発表されました。このことにより、市長選挙における争点はいよいよ明確になりました。

しかし、残念ながら政策を議論する政策討論会は、現職（前市長）側の都合により実現しませんでした。結果的に、選挙戦は政策や政治手法を競うものではなく、残念ながら噛み合わないものとなってしまいました。この度の、市長選挙の様子やあり方に関して、津山市民の皆様方がそれぞれに、色々なことを感じておられると思ひます。私も、言いたいことやお伝えしたいことがあります。

しかしながら、選挙が終わった今、多くを語ることは避けたいと思ひます。そのうえで、一言だけ述べさせて

いただければ、首長や議員など政治に携わる人間を選ぶ選挙においては、「誰に財布を預けるのか」或いは「誰に未来を託すのか」というような、いわば責任と覚悟を持った判断をしていただきたいと、強く思ひます。

そのためには、選ばれる側においても自ら襟を正し、資質向上のための精進や研鑽を積んで行かなければなりません。そのことも、しっかりと肝に銘じていきたいと考えています。

いずれにしても、この度の市長選挙におきましては、良識ある津山市民の皆様方による、賢明なご判断をいただきました。そして、その結果

▲裏面に続く



として、谷口圭三新市長を誕生させることができました。

ご支援いただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。また、まことに、ありがとうございます。これからは、立ち位置が敵とか味方とかいうような些末な議論ではなく、このまちの将来や進むべき方向性について、意義のある議論を深めていきたいと考えています。今後とも、よろしくお願いいたします。

三月議会の概要

実は、この三月議会に上程される議案は、前執行部により起案された来年度の骨格予算が主なものになります。また、谷口新市長の思いの込められた施政方針は、次の六月議会において述べられることとなります。

そのようなこともあり、今回の三月議会においては、各会派が代表質問を行う傾向となりました。具体的には、初日（三月五日（月））の一番に津山自由民主倶楽部の吉田耕造議

員が質問に立ち、その次に緑風会の金田稔久議員が質問に立ちました。そして、初日の三番目が私達の会派未来の順番で、会派を代表し小椋多議員が代表質問を行いました。

ここで補足しておきますが、津山市議会における代表質問の順番は、会派の構成人数の多い順になります。したがって、先ほど述べたような順序となりました。因みに、我々の後は公明党市議団を代表して原行則議員が代表質問を行い、初日の一般質問が終わりました。

その後は、二日目に四人（津本憲一、黒見節子、美見みち子、田口浩二）、三日目に二人（中村聖二郎、安東伸昭）の議員が一般質問に立ちました。

会派未来の質問内容

会派未来としては、「津山市の課題と未来について」という大きな項目を掲げ、谷口市長のマニフェストである津山八策に関する質問を中心に、今回の市長選挙における投票率の低さなどについて質問しました。

具体的な項目としては、津山市の財政状況と職員の心情を踏まえた見解と骨格予算に対する思いについて。低迷する津山の教育について。高齢者・障がい者福祉に関すること。農林部の新設を含む農・林業施策について。また、観光施策と公共交通に関する事項について。さらには、子育て支援と人口減少対策についてなどです。

この他、前市長が任期中の判断を留保していた、米海兵隊岩国基地の

後方支援部隊による日本原演習場単独訓練の受け入れについては、一番目の津山自由民主倶楽部による質問に際して、受け入れる方針が示されました。

このことについては、国の安全保障・国防に関わる重要な問題にも関わらず、受け入れの表明まで一年一か月を要した理由について執行部（担当部長）を質しました。当然ですが、この期間に関して谷口市長は関わっておりません。

また、当初質問に対する関連質問も行いました。しかしながら、関連質問ができる項目は一人一項目となっておりません。当日は、インフルエンザで中島完一議員が欠席となりましたので、私が代わりに農業施策に関する質問をすることにしました。

したがって、本来私が質問する予定にしていた、観光施策に関する質問はできませんでした。これについては、質問する範囲も広く発言内容も多岐に渡っており、次の六月議会において、改めて踏み込んだ質問をして行きたいと考えています。

終わりに

この度の三月議会における一般質問で、私の津山市議会における質問は十二回目となりました。私は、当初からは々々非々の視座に立って執行部を質し、観光施策や農業施策、或いは公共交通施策などに関して、建設的な提言を行ってきたつもりです。

これまでは、そのような志を持っていても、まともに議論ができない状況

でした。しかし、これからは津山の未来や、将来を担う子供や孫たちのために、何をどのようにしてゆくべきなのかについて、真摯な議論ができるのではないかと考えています。今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

